

広島市植物公園

見どころ案内

展示会のご案内

◇展示資料館 1F(9/22~12/25)

特別企画展「バオバブ展」

ドウダンツツジ (ツツジ科)

和名は、車輪状に伸びる枝のようすが、大昔の照明器具「結び燈台」の足に似ていることから、トウダイ→ドウダン。白い花が多く咲く様子から「満天星」という別名もあります。

ナンキンハゼ

(トウダイグサ科)

中国原産。ハゼノキと同様に蠟や油を採ることができます。鳥が種を運び、野山に逸出することがよくあります。

トウカエデ (ムクロジ科)

中国東南部原産。江戸時代初期に渡来しました。四季を楽しむ盆栽として人気があります。樹皮が短冊状に剥がれるのが特徴です。

スズランノキ (ツツジ科)

アメリカ東部原産。5月に白いスズランに似た芳香のある花が咲きます。同じスズランノキの名前で *Zenobia pulverulenta* (ゼノビア、ツツジ科)が流通しており、混同されています。

カエデ園 (ムクロジ科)

いよいよカエデ(モミジ)の仲間が紅葉の時期になりました。品種により葉の大きさや色合いが異なるのも見どころです。

ニッサ・シネンシス

(ヌマミズキ科)

秋の紅葉が美しく、ニシキギ(休憩展望塔)、スズランノキ(イベント広場)とともに世界三大紅葉樹のひとつに数えられます。寒さが深まるほど鮮赤色に紅葉していきます。

フウ (マンサク科)

別名台湾フウ、台湾・中国南部原産です。街路樹としてもよく植えられています。

ヤマコウバシ (クスノキ科)

落葉樹ですが、春先まで葉が落ちません。葉を揉むと芳香があることから「山香ばし」。12/1 から合格祈願のお守りとして売店で販売します。

ニシキギ (ニシキギ科)

日本・中国に自生する落葉性の低木です。枝に翼(よく)と呼ばれるコルク層の羽があります。

カキノキ (ウルシ科)

直角に枝分かれすることや、小葉がきれいに揃っていることから、「楷書」の語源となっています。孔子廟に植えられていたことから、学問の木としても知られています。ピスタチオと同属です。

イチヨウ (イチヨウ科)

中国原産。恐竜のいた時代から形を変えずに残っている植物の一つで、生きた化石とも呼ばれます。広場の手前が雌株で奥側が雄株です。

